

学位論文審査の結果の要旨

氏名	栗畑 恭介
審査委員	主査 伊藤 勝久 (印)
	副査 能美 誠 (印)
	副査 井上 憲一 (印)
	副査 一戸 俊義 (印)
	副査 赤沢 克洋 (印)
題目	中国西部農村における就業移動とその影響に関する研究
審査結果の要旨 (2,000字以内)	
<p>中国では改革開放以降、農村に停滞していた余剰労働力を都市・工業部門が豊富で安価な労働力とすることで、急激な経済成長をとげた。農村戸籍を有しつつ非農業に従事する彼らは農民工と呼ばれる。その供給側である農村では、人口圧力の低下と農外部門からの収入によって貧困問題の緩和もみられるが、未曾有の社会変動をもたらした。</p> <p>従来、農民工の研究は、出稼ぎ先である都市における農民工自身の実態に関する研究が主流であったが、本研究では農民工を析出した農村に所属する人々の就業構造の変化、就業移動による農業への影響、農村の住民活動および担い手への影響について農村内部の調査から考察したものである。</p> <p>第1章では、中国における経済成長過程と就業移動の変遷を概観した上で、中国の就業移動に関する特徴的な戸籍制度、土地制度、および退耕還林政策の変遷をまとめた。また中国の就業移動との農村の変容に関する先行研究のレビューとともに、就業移動に関する文化的背景を整理した。</p> <p>第2章では、条件不利地域である寧夏回族自治区の南部山区を対象に、《中国寧夏南部山区生態建設と経済社会発展実証研究》課題組によって2000年から2002年にかけて行われた3年間のパネル調査による農家経済調査の結果を使用し、農外就業の普及段階の所得、就業構造の変化とその要因を考察した。その結果、産業間の転出入が激しく、初期の不安定な農外就業状況がみられ、また所得・就業相互の関係、また地域特性、学歴や所有資産、初期所得といった初期条件の違いによる農外就業への影響が確認された。また、本地域で就業移動のプッシュ要因として就業移動に大きな役割を果たしたと考えられた退耕還林(草)政策については、その実施による就業状況への明確な差はなかった。また産業間の転出転入が激しく、いずれも一時的な就業移動であることを明らかにした。</p>	

第3章では、条件不利地域のより詳細な就業状況と農村活動や農業への関わりを確認するために、寧夏回族自治区南部の固原市彭陽県から自然・社会条件が異なる3村を選定し、就業者個人に対するアンケート調査並びに村長ら村の顔役からのヒアリングを行った。その結果、条件不利な地域の方が住民活動の活発性の低下が見られ、好条件地では、手間替えや無償で行われてきた農民相互の共同作業が、経済的なインセンティブを付加することによって維持されていた。農業に関しては在村者のほとんどが実施しており、その中でも出稼ぎ能力が高いと想定される者ほど積極的な農業を行っているという結果を得た。

第4章では、通勤型就業が多い寧夏回族自治区吳忠市の都市近郊の農村において、在村者に対する聞き取りから、改革開放以降の農外就業の変遷を確認し、世帯における農外就業と農業の位置づけと今後の就業の展開可能性を検討した。その結果、多くの農外就業は臨時的就業に過ぎず、就業経験の長さや熟練による安定性や収入の上昇もみられない。また収入のほとんどを農外就業から得つつもその不安定性から、農業には生活保障としての役割が求められていた。一方、順調な農外就業は農畜産業の収入増加にも貢献していることを明らかにした。

加えて補章として住民活動を取り上げた。出稼ぎ・通勤兼業と就業形態の異なる2調査地を対象に、就業移動の影響とそれに対する住民の対応をまとめた。そこでは農外就業の普及に従って、伝統的規範から経済的なものへと行動様式が変容し、伝統的に無償で行われていた活動の幾つかは、新たに経済的な仕組みを導入することにより維持されていた。また従来からある助け合い活動などを村政府が新たに制度化し、普及をうながすなどの対応がなされていた。

以上の点から終章では、中国西部農村の就業移動とその農村・農業への影響を、出稼ぎ労働力供給農村と都市近郊の農村との比較を行いつつ整理した。省都から遠隔地の出稼ぎ労働力供給農村では農業・農村の衰退が著しいが、新たな担い手も育ち土地制度如何により農業の近代化を目指せるが、都市近郊農村では通勤兼業の深化とともに生活保障的に伝統的農業が維持されていることが多かった。また住民活動も農村の変容により、経済的動機を重視したものに変わりつつある。これらのことから、労働力供給元の農村では、一地方（自治区）内部でも立地条件と発展段階により所得上昇率格差を伴いながら全体的に農村・農業が現状では発展しているが、世代間の就業選好により将来は衰退に向かわざるを得ないことを明らかにした。

以上のように本研究は、中国西北部条件不利地域の農村・農業の経済発展の影響による社会変動を、農業維持の意向、就業構造の変動、住民活動という農村内部のミクロ的分析を積み上げて実証した。本研究は、中国における農村研究に新たな視点を提供し、今後の開発経済学の研究深化に貢献するものと期待され、博士（農学）の学位論文として十分な価値を有するものと審査員一同判断した。